



市P連だより

卒業を迎える君たちへ



尾道市PTA連合会
会長 半田 真悟

卒業生のみなさん、ご卒業おめでと
うございます。
卒業は1つの区切りであり、新たな
挑戦のスタートであります。

新たな環境にわくわくする所もあり、
反面、不安な所もあると思います。
しかしながら君たちは、今まで友と
いろいろな経験を積み、先生や家族・
地域の方々いろいろな事を教えても
らって立派に成長しています。

これから壁にぶつかることや失敗す
ることも多くあると思います。でも君
たちが前を向き、一步を踏み出すこ
とで、その瞬間から失敗ではなく、経験
となります。そしてこの経験が皆さん
の宝物になります。

この宝物は、これから皆さんを励ま
し、応援し、次のステップに導いてく
れることでしょう。

卒業を迎え、いままで普通に毎日
会っていた友や先生とのお別れは寂し
い事と思います。

しかし、これからまた新たな友や先
生との出会いがあります。

人と出会い、人と関わり、いろんな
話をする事で笑う事、泣く事、怒る事
反省する事、喜ぶ事、いろんな感情や
表情を持って、そして経験を生かし、
へこたれず、強い意志を持った人に大
きく成長し、素晴らしい人生を送つて
くれることを心から願っています。

君たちのふるさと尾道は、ずっと君
たちを見守っています。

最後になりましたが、卒業生の保護
者の皆様、お子様のご卒業、本当にお
めでとうございます。

卒業生へのメッセージ



尾道市教育委員会
教育長 半田 光行

卒業生の皆さん、ご卒業おめでと
うございます。保護者の皆様、お子様
のご卒業、本当におめでとうござい
ます。

また、今日まで卒業生を、教え導い
てくださった諸先生方、陰になり、日
向になり、卒業生を支えてくださった
地域の方々には心からの敬意と感謝の
意を表するものでございます。

卒業される皆さんには、今まで過
してきた月日が走馬灯のように思い
出され、感慨深いことと思います。友
達の顔、先生の顔、皆で勉強した教室
の思い出は、これからの皆さんの心の
支えとなることでしょう。

皆さんには、自分がこれから努力す
べきこと、学ぶべきこと、これからす
べきことは何かについて真剣に考え、
自分なりの答えを見つけていってほ
しいと思います。

そうした夢や志を育みながら、若い
エネルギーをもって未来を切り拓き、
新しい時代を創ってほしいと願っ
ています。

新しい未来には楽しいことばかりで
はなく、失敗して挫折したり、壁にぶ
つかっつらいこともあると思います。

次の時代の尾道、新しい日本を担う
皆さんには、それを乗り越える強さを
学んで身につけてほしいと願っています。

人間は、社会をつくって、たがいに
助け合って生きています。

皆さんは、いたわりや、やさしさを
身につけて、自分のためにだけでなく、
人のために汗と涙を流せる人になつて
ください。

相手の立場になつて考える気持ちは、
心の中にやさしさを生み、やがて自分
を生かすことに繋がります。

自分に厳しく、相手にはやさしく、
そして、素直で賢い大人になつてほ
しいと願っています。

将来、この尾道から世界に羽ばたく
人もいるでしょう。この尾道を拠点に、
尾道に世界を招き入れるような仕事を
してくれる人もいます。

今日の日まで皆さんを支えてくれた
ご家族や先生方、友達、たくさんの方
域の方々にご恩返しするつもりで、「自
分のことは自分で出来る」「正しい道
を進むことが出来る」、そんな人にな
れるよう、明るく元気で頑張ってください。

皆さんが、ふるさと尾道で生まれ育つ
たことに誇りを持ち、大きな夢と志を
抱いて、家族を大切に、世の中の役
に立つ、そんな素晴らしい人生を送つ
てくれるよう、心から祈っております。

立志式

1月26日(土)

しまなみ交流館に
おいて、「第八回
おのみち立志式」が
開催されました。



立志式は、昔でいうところの元服(数
え年で十五歳)の年に、将来の「目標」
とそれに向かう自らの「志」を宣言す
ることで、自らの目標達成への決意や、
意識を高められるように行われてい
るものです。

半田教育長による激励の後、中学二

年生の代表である美木中学校 荒金
究さんが平谷市長の前に「誓いの言葉」
を堂々と読み上げました。

また、尾道市長、市議会議長からの
激励の後には、厳正な選考を経て選ば
れた5名の中学生により、「志宣言」が
発表されるなど、十五の志を立てる立
派な式典となりました。

発表者のみならず、中学生の皆さん
全員の輝かしい未来に私たちも期待し
ています。

志宣言

清水 悠里 (瀬戸田中学校)
「わたしの目指すもの」

塚本 咲良 (浦崎中学校)
「叶えたい夢」

山根ももか (御調中学校)
「人助けをするために」

大出 瑞歩 (重井中学校)
「私の夢」

平田和花子 (栗原中学校)
「見えてきた自分の進路」



「誓いの言葉」美木中学校 荒金 究

第11回

市P連親睦 ソフトバレーボール大会



更に、今大会では昨年まで無かった試みとして競技規則の中に「サーブス権があっても同じ人がサーブを打たない。ローテーションを行う」という方法を取り入れました。

この試みは「選手として参加される方々が、試合中に数多くのプレーが出来る事で、楽しんで貰えるのではないか」というスタッフの思いから実施させて頂きました。

また、ご来賓の皆様には大変お忙しい中、今大会に御来場して頂き大変ありがとうございます。

そして、市P連役員の皆様、関係各位の皆様には、大会準備の際、御指導、御支援を頂きまして感謝申し上げます。

最後になりましたが、来年度大会運営を担当される向島中学校ブロックの皆様、大会が無事開催されるように心より願ひ応援いたします。

皆さん、大変ありがとうございます。

各小・中学校PTA会員の皆様、9月9日に開催された市P連親睦ソフトバレーボール大会には多数の御参加を頂き、大変ありがとうございます。私たち御調中学校ブロックでは大会運営するにあたって「つながれ、つながれ、みんなの笑顔」をテーマとして、御調中、御調中央小、御調西小の3校がつながり協力することで、良い大会を運営することを目的として進めてきました。



本年度、教育フォーラムを「絆」のテーマで開催させていただきました。

美木・原田ブロックは、尾道市のなかでも少子高齢化の大きな課題のある地域です。

その中で、子育ては、地域、学校、家庭の協力が不可欠の環境です。

しかしながら、そのピンチをチャンスに変えるべく、保護者間の協力とパワーは、今回の発表で見えたのだとおもいます。

子ども達はおとなの背中や地域の姿をみて育っていくもだと思えます。発表では、伝統的な太鼓の

第8回 尾道市教育フォーラム
実行委員長 高田 幸治

教育フォーラムに携わって

継承教育、農業体験を通じての地域連携教育、腐葉土から学ぶ実践教育、ゆとり教育の実践など、どれも地域の後押しなしでは、考えられません。子ども達は、地域で育っていることに感謝し、また伝統ある小学校で良い仲間と出会い、人生の中で求めるものが何かと、日々勉強にクラブ活動に頑張っています。今回の発表のために、たくさんの人にご助言とご指導いただいたことにあらためて御礼申し上げます。

また今回のフォーラムを通じて、地域の中での小中学校の役割が大きいことを改めて感じました。

発表前日まで、大会の成功には不安でいっぱいでした。当日はみなさんに絆のテーマをしっかりと伝えようとなつたような気がしました。

最後になりましたが、美木原田ブロックの全員、この貴重な経験を次へのステップに生かしていきたいです。

本当にありがとうございます。



おのみち母の会さくら研修会

母親代表 木曾 奈美



今年度の『おのみち母の会さくら』は第1回目を6月27日(水)に、第2回目を10月17日(水)に市P連事務局で行いました。どちらも岡田顧問を全体会の講師にお迎えし、第1回目は「母親代表の成り立ちや母親代表の役割」、第2回目は「若者は今、く小・中学生の性について」としてご講演をいただきました。

その後は、小学校・中学校に分かれてグループディスカッションを行ったのですが、お互いの悩みや各学校でやっている事はいろいろ違えども、

PTA会長研修会

2月22日(金)尾道市人権文化センターでPTA会長研修会が開催されました。

小中学校のPTA会長は、各単位PTAにおける予算執行や、行事の運営など様々な内容について議長として会議し、決議を取りまとめながら、会の運営を行っているところですが、その過程においては役員や会員の方々のコミュニケーション能力や、様々な決断と実行力を伴うリーダーシップが大いに求められています。

しかし、全員がこういった立場に精通しているわけではないことに加え、個々の聴き取りにおいても、会議の運営等に不安を感じている会長も多々おられることから、

そこは子どもを持つ母親同士、初めは緊張するのですが、いつも時間がもつと欲しいと思うくらい議論が盛り上がり、母親だからこそ心配だし、知りたいと思う情報交換や共有をすることができました。単Pで活動するだけでは分からないこともたくさんあるので、そこに『おのみち母の会さくら』として活動する価値があるのではないかなと思います。

第3回目は1年間のまとめとして2月16日(土)にファンダンゴにて茶話会を行い、今年度の研修会を終えました。

1年間お疲れ様でした。ありがとうございました。

今年度は、PTA会長研修会として、「フアシリテーション研修」を開催することとなりました。

研修では、他人まかせとなりがちな会議を発言のしやすい、生き生きとした場にするための手法や、会の意見をまとめ、目標に向かって個々の個性を活かしながら、進める手法(スキル)を学ぶことができました。

地域づくりは、人づくりであることは言うまでもありませんが、健全な小中学生の育成を目的とした各PTA活動の活性化のためには、会の代表として、また一人の親として、これらのスキルアップも欠かせないものであると改めて感じた会長研修会でした。

各会長も頑張っています。引き続き、会員の皆さまのご協力をお願いします。

交通安全大会

10月6日(土)尾道市公会堂で第52回交通安全大会があり、市P連から「こども110番事業」について説明を行いました。

大会では、尾道市立向島中央小学校1年 高野夏実さん、尾道市立向島中央小学校4年 山本真由さん、尾道市立高西中学校1年 福島渚さんが交通安全の作文を発表し、会場から大きな拍手を受けました。

平成24年度の交通安全年間スローガンは、「車にも 乗せようマナーと 思いやり」「自転車も 安全速度と 気配りを」「いそいでも かならずかくにん みぎひだり」です。

全国でも頻繁に起きている小中学生の交通死亡事故の撲滅に向け、私たち保護者も、私ごととして意識し、十分に気をつけなければ。と感じました。

市内の各通学路での登校安全指導、下校時にご協力を頂いている見守り散歩などの充実を今後も図り、子ども達を地域の手で守って参りたいと考えています。



親(おとな)の道徳教育講演会



加藤りつこ氏

2月27日(水)しまなみ交流館において、平成24年度の親(おとな)の道徳教育講演会が開催されました。

この行事は、少子化や社会構造の変化により、自らの経験や過去の教訓等が活かしにくくなっている現代社会での子育てにおいて、さらなる家庭教育の資質向上やモラル低下の抑制を目的として行われている講演会です。

今回は、「めぐる命のコンサート」語り継ぐ大切な命」と題して、加藤りつこ氏、奥野勝利氏をお迎えしました。

冒頭、教育長から、子ども達に「一人で生きていける力、食べていく力、自立力を養って欲しい。」これに加えて、困難な時代だからこそ、「互いに助け合い、励まし合える、他者を認められる力(自律心)を備えて欲しい。」などの挨拶がありました。

講演者の加藤先生は、阪神淡路大震災で、息子さんを亡くされた悲しみを乗り越えた経験などを通じて、人との縁や絆、深い家族愛などを語りかけられました。

奥野先生は、加藤先生の亡き息子さんの手紙「親愛なる母上様」に



奥野勝利氏

感銘を受け、手紙にメロディーをつけて作曲されているだけでなく、ご自身の家族愛、親からの導きなどについてユーモラスに話されるなど、参加者の共感を呼び、涙と笑いに満ちた有意義な講演会になりました。

さまざまな視点からの家庭教育へのアドバイスや、きっかけが、水の波紋のように各家庭や、保護者の間で広がることにより、無限の可能性を持つ子ども達が今より、少しでも豊かに成長できるように願っています。



第39回 因島地区PTA球技大会



ビーチボールバレー大会

平成24年12月16日(日)に、第39回因島地区PTA球技大会(ビーチボールバレー大会)に参加してきました。

例年、市P連チームは総勢18人で1チームの参加ですが、今年度は沢山の参加をいただき、総勢36人の2チームで参加することが出来ました。

結果は第3位と健闘賞でしたが、参加した選手の方から「初めてビーチボールバレーを試みたが、身長に関係なくアタックやブロックが出来たことに感謝します」などの言葉をいただきました。

日本PTA全国協議会 年次表彰式

去る平成24年11月22日、東京赤坂のホテルニューオオタニにおいて「日本PTA全国協議会 年次表彰式」が開催されました。尾道市PTA連合会からは、広島県PTA連合会会長として全国大会を成功に導かれた功績を称えられ、加藤千政前会長が受賞されました。お慶び申し上げます。



加藤千政 前会長(左)と岡崎博 県P連会長(中)、西本博之 前県P連副会長(右)

一年を振り返って

市P連筆頭副会長 一色 伸良



会員の皆さまにおかれましては、一年間、市P連の行事にご参加下さり、ありがとうございました。

尾道市教育フォーラムや、市P連親睦ソフトボール大会といった大きな行事も無事に終えることができたのも、皆さま方のご協力のおかげと考えております。

これらの行事を通じて、尾道市PTA連合会と、各学校のPTAや育友会とのつながりや絆といった目には見えないとても大切なものが、皆さま方の心の中にもさらに数多く芽生えておられることを考えています。

個の時代と言われる現代のような社会の中で、子ども達を正しい方向へ導いていくためには、PTAのような身近な団体こそが「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という精神を日頃から大切にすることが心掛けておかなければならないのではないかと考えています。

これからも親同士が、互いに意見を述べ合い、悩み、喜びを分かち合いながら、いつも私たちの中心にあり続ける子ども達の健やかな成長を一年間、ありがとうございました。